

獣医のカルテ



9



池原動物病院長  
(富山市経堂)  
池原 光輝

日本には本州、四国、九州にノウサギ、北海道の平野部にエゾウサギ、大雪山系にナキウサギ、奄美大島や徳之島にはアマミノクロウサギが生息しています。ノウサギの四肢は大きくすらつと長く、耳も大きく、北日本では冬には真っ白に変身します。  
今、日本で飼育されているウサギはアナウサギという種類です。もともと欧州や北米などに生息していたウサギから品種改良を繰り返した外来種で、日本のウサギとは全く違うものです。  
ウサギは犬や猫とは解剖学的に大きく異なり、それゆえの特徴的な病気が多々ありますが、今回は足底皮膚炎と顎膿瘍についてお話しします。

ウサギに特徴的な病気



ノウサギ(上)とアナウサギ。  
ノウサギの方が足が長く、冬には毛が真っ白になる

皮膚炎や膿に注意

犬や猫には靴の代わりとなる肉球があります。ウサギには認められず、四肢の裏を深く覆っている毛がその代わりを果たします。そのため、床が固い、湿っているといた環境要因のほか、太り過ぎ、激しいスタンピングなどによって足底皮膚炎を引き起こします。初期にはかかと部分の毛が少なくなり、皮膚が露出し赤くなります。やがて出血が床に付き、飼い主が気付きます。さらに放置する

と、膿がたまり始めます。この段階まで来ると足を引きずったり、しきりになめたりといった行動が見られ、治療も長期にわたることがあります。  
顎膿瘍は、多くは下あごに発生します。あごの下にぶよぶよとしたものが見られます。中は粘調性の高い大量の膿で満たされています。この粘調性も他の動物には見られず、治療を困難にしています。臼歯の根が化膿し、あごの皮下

に膿が流れ込むことによって発症します。不適切な食事や過労、ストレスなどが原因ともいわれていますがはっきりわかっていません。  
犬や猫では化膿した臼歯を抜いて洗浄し、抗生剤を投与することでほぼ完治します。ウサギも基本的には同じですが、原因となる菌が常在菌であること、あごの骨自体も化膿し変形してしまうこと、膿の特性などにより、残念ながら

完治に至るものは10%以下で、生涯にわたって治療が必要になるケースがほとんどです。治療により明らかに生活の質は向上し、ほぼ通常の生活を送ることは可能です。  
ウサギに特徴的な病気は、県獣医師会ホームページ(<http://www.tovamavet.or.jp/>)内の「北日本新聞連載記事」のコーナーでも紹介しています。